

# 事業評価シート（平成26年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	ノンステップバス推進事業		
事業担当	まちづくり政策部 交通政策課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	利便性 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等	地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱		
対象・受益者	バス利用者	事業期間	平成20年度 ~
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 神奈川中央交通(株)】		
	目的・目標		事業の概要
誰もがバスに楽に乗り降りでき、平塚駅や周辺の目的地への移動の利便性・安全性が向上しています。		バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図るため、ノンステップバスを導入する際、国と市で補助し、市内を運行するバス車両のバリアフリー化を推進します。	

## 2. 事業の検証

活動指標	指標名	ノンステップバス導入台数			単位	台
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	6	6	11	12	
	実績	6	6	11		
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	ノンステップバス導入率			単位	%
	説明・算定式	平成32年度までに導入率70%を目標とした達成率				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	16	19	26	33	
	実績	15	19	26		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	：予定どおり					
	遅れている理由					
平成26年度の主な取組と成果						
国の補助に準じ、バス事業者に対しノンステップバス11台の導入を補助しました。						
平成26年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるモビリティ整備を望む声は多く、国の補助制度と連携し、ノンステップバスの導入を促進する必要があります。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	誰もがバスに楽に乗り降りでき、バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図り、誰もが快適に暮らせるまちを目指すためには有効な事業です。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	国が定める基本方針では、バス車両に対し平成32年度までに70%をノンステップバスに切り替えることを目標としていることから妥当性があります。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	バス事業者に対し、平塚市バス利用促進等総合対策事業補助金交付要綱による補助を行い、効率的な導入を図っています。	高中低
<b>今後に向けた課題の分析</b> 平成32年度までにノンステップバス導入率70%を目標としていますが、バス事業者の車両更新に際して採算性等の課題もあるため、十分に協議を重ね計画的に導入を図る必要があります。また、病院や福祉施設がある路線へのノンステップ車両の配置や県の補助制度導入に向けての検討や広域連携での負担の公平化などが必要となります。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		ノンステップバス導入の支援	ノンステップバス導入の支援	ノンステップバス導入の支援	ノンステップバス導入の支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	8,550	6,834	15,400	16,800
事業費 (A)		8,550	6,834	15,400	16,800
執行率 (%)		100.00	100.00	98.25	

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成28年度の取組方針</b> バリアフリー新法に基づく国の整備目標に合わせ、市においても目標達成に向け計画的に進めていきます。また、県へ補助制度導入の要望を継続し、広域連携の検討など各自治体の負担の公平化を図る方策に取り組みます。
<b>課長コメント</b> 誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるための手段の一つとしてノンステップバスの導入は必要な施策であり、目標達成に向けて継続していくべきものと考えます。平塚市バリアフリー基本構想に基づき計画的に導入を図る必要があります。